

# 町民の安全を第一に考えた防災体制の確立を

総務常任委員長 築井あけみ

当委員会は、5月12日  
委員会を開催し、玉村町  
の防災体制について調査し  
た。

## 調査経過

東日本大震災が発生した  
3月11日から4月30日まで  
に、玉村町で観測された地  
震は196回、うち震度2  
以上は57回だった。(11日  
は、震度2以上が19回観測  
された)



被災地へ向かうリサイクル自転車

## ●防災倉庫の備蓄状況

町内6カ所（小学校5校・  
勤労者センター）の防災倉

庫に防災用品が備蓄されて  
いる。備蓄食料は、町民の  
防災意識を高めるため、保  
存期限内に防災訓練や産業  
祭などで配布している。

## 考 察

東日本大震災の発生を受  
け、防災体制の確認と検証  
を再度行つてほしい。

## 地震防災マップ・防災訓練

防災行政無線などを再度確  
認し、いざという時にそれ  
ぞれを有効に活用できるよ  
う努力されたい。

## 当委員会は、5月10日 委員会を開催し、群馬デス ティネーションキャンペー

ン（群馬DC）の取り組み  
について調査した。

## 調査経過

デステイネーションキャ  
ンペーンとは、JRグル  
ープ6社と自治体、地元の觀  
光事業者等が協働で実施す  
る大型観光キャンペーンの

変好評を得た。  
また、平成23年2月11日、  
「早春の三大祭りツアーア」

として、上新田稲荷神社獅  
子舞、すみつけ祭、春鉾祭  
を巡るツアーを行つた。

実施年であることには、

「例弊使道などのまちある  
きツアーア（通年）」「たまむ  
ら花火大会（7月）復興支  
援事業」を企画し、観光の  
推進を図る。

## 考 察

北関東自動車道の全線  
開通など交通の利便性が向  
上したことから、大きな期  
待がかけられていた群馬D

Cだが、東日本大震災によ  
り状況が一変してしまつた。  
このキャンペーンをきっかけ  
に、多くの人に玉村町を  
知つてもらえるよう努力し  
てほしい。町にとって、觀  
光は新たな取り組みであ  
る。地道に着実に育てて  
いつてほしいと願う。

# 群馬デステイネーションキャンペーン で、玉村町の観光PRを

経済建設常任委員長 島田 榮一

群馬県では、7月1日か  
ら9月30日まで実施するこ  
とになつており、さまざまな  
な観光事業に取り組んでい  
る。



また、5月6日には、ク  
リーンセンターでリサイク  
ルされた自転車31台を福島  
県郡山市へ輸送し、富岡町  
へ支援物資として送つた。

第1グループは7回、第  
5グループは5回実施され  
た。計画停電中は、町民の  
安全に配慮し、消防団の夜  
警が行われた。

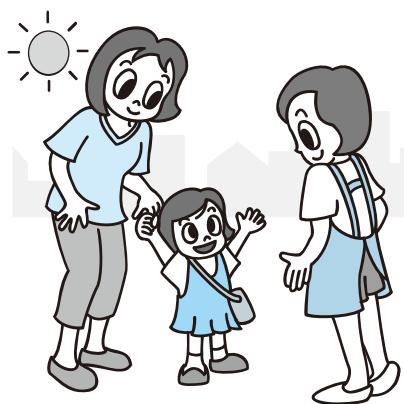
また、5月6日には、ク  
リーンセンターでリサイク  
ルされた自転車31台を福島  
県郡山市へ輸送し、富岡町  
へ支援物資として送つた。

当委員会は、6月10日  
委員会を開催し、子育て相  
互援助活動について調査し  
た。

## 調査経過

- ・保護者が外出（冠婚葬祭・通院・買い物）する際の預かり（9人）
  - ・保育施設等の開始前・終了後の送迎（36人）
  - ・保育施設等の開始前・終了後の預かり（8人）
  - ・学校放課後、児童館終了後の預かり（0人）
  - ・病児・病後児の一時預かり（1人）
- ※（ ）内は、5月末日現在の利用者実績
- この事業は、町民の二つにあつた事業だと言える。子どもを安心して育てる環境整備を推進するとともに、事故のない適切な事業運営を展開してほしい。
- また、事業拡大を考慮し、会員の経費軽減のため、補助制度導入も一考か。

文教福祉常任委員長 村田 安男



## 被災者へ義援金を！

玉村町議会  
継続支援

玉村町議会は、日本赤十字社群馬県支部を通して、東日本大震災の被災地に義援金を送っています。義援金は、議員の募金によるもので、震災発生後の3月に、1人6万円（総額96万円）を送りました。今後も、9月まで毎月1人1万円（月16万円）を継続して送っていきます。（4月以降、各常任委員会が毎月交代で日赤へ届けています。）



文教福祉常任委員会



経済建設常任委員会



総務常任委員会